

NPO「国際社会起業サポートセンター（仮称）」の設立趣旨（案）

NPO設立の背景

東京工業大学の国際的社会起業家養成プログラムは、文部科学省の平成19年度大学院教育改革支援制度に基づいて昨年10月に設立された。このプログラムは、日本や世界の様々な社会問題の解決に革新的手法で貢献する「社会起業家」の養成を目指した大学院プログラムで、これまでに以下の事業を実施した。

1. 国際シンポジウム「環境問題と社会起業家の役割」の開催
2. 大学院生3名を海外NPOへ派遣
3. タイの泰日工科大学、タマサート大学との交流
4. 留学生対象の英語による社会起業ビジネスプラン演習
5. 留学生対象のビジネスプラン・コンペの開催
6. 社会起業見学会及び外国人講師の講演会の開催

留学生対象のビジネスプラン演習には、主にアジア・アフリカ出身の15名の留学生が参加した。その内5名がビジネスプラン・コンペに、環境、学術交流、観光振興、農業分野などのビジネス計画を提出し優勝を争った。理工系専攻である東工大の留学生にとって、社会起業家というコンセプト自体がまだ新しく未知の分野ではあったが、多くの留学生が興味を持ち演習やコンペに参加したことは特筆すべきである。

しかし、現在の東工大のプログラムに対する政府の予算支援は3年間であり、対象も東工大の学生・留学生に限定されている。同様の社会起業家養成・支援活動の対象を東工大以外の学生、特に我が国に留学している途上国出身のより多くの学生に広げ、留学生が将来自国の社会問題の解決に取り組むようになる契機を作ることは、非常に重要であると思われる。そのためには、政府の資金のみならず、民間からの幅広い支援が必要である。また、現在我が国においては、留学生に対する社会起業家支援を実施している団体はなく、事業実施のための民間組織を設立することは、留学生に対する支援という観点からも意義がある。

国際社会起業サポートセンターのミッション及び事業

国籍を問わず、世界の社会的課題解決に、新しいアイデアで挑戦する社会起業家の養成をミッションとする。特に、留学生に対する支援は、途上国における社会起業支援という新たな枠組みの構築に寄与すると考えられる。

優れた事業計画に対しては、構想段階から支援し、事業の立ち上げへとつなげる。規模拡大時には、助成財団への申請、企業CSRとの連携などの支援を行う。

この目的を達成するために、下記の事業を当初の2年間に実施する。

1. 留学生を対象とした英語によるビジネスプラン構築演習
2. 留学生を対象として社会起業ビジネスプランコンペ
3. ビジネスプラン構築支援、調査のための旅費支援
4. 世界の社会起業家を招聘しての国際シンポジウム
5. 世界的な社会起業支援財団やアジアの大学とのネットワーク化

当初2年間は、東工大国際的社会起業家養成プログラムの事務局チームがボランティアで事業を運営する。

また、事業立ち上げ支援に興味がある技術・ビジネス経験者を支援ボランティアとしてグループ形成して、優れた事業計画のスタートアップから立ち上げ、更には規模拡大に対して支援を行う。

以上

2008年10月10日

NPO「国際社会起業サポートセンター（仮称）」

設立代表者 渡邊 孝